

# しんがりに生かされて生きる

浅見 鶴蔵

事を始める勇氣と、やめる勇氣とがあります。やめる時の勇氣は、始める時よりも数段の決断が必要です。

バブル崩壊後七、八年経ちますが景氣は仲々良くなりません。

三〇年前、オイル・ショック、ドル・ショック、円高等の時に大変な経験をしました。

それは、七百名企業の会社の倒産です。従業員の代表として、二年間、「患・難」「忍・耐」の四文字に全力を注ぎました。

「患難」は苦難と受け止め、神の愛と懲らしめ、訓練であり、「忍耐」は、従業員の失業保険料の確保から始まり、同僚の裏切り、下請け関係の交渉等において、耐え忍ぶ多くの経験をし、「主があなたの前に進み、イスラエルの神が、あなたがたのしんがりとなられるからだ」イザヤ五二・12のみことばで、神は、私の背後にあって、〈しんがり〉として患難に適った導きで後始末をして下さいました。

勇氣を与える神の偉大さを深く知りました。